

にほんご
日本語のあいまいさ

でんしゃ なか ふたり がくせい はな
電車の中で二人の学生が話しています。

だんしがくせい えいがい
男子学生「あした、映画行かない」

じょしがくせい
女子学生「あしたは、ちょっと……」

かいわ き じょしがくせい えいが い おも い
この会話を聞いて、あなたは、女子学生は映画へ行くと思いますか、行か
ないと思いますか。「あしたは、ちょっと」のあとには、どんなことばが続く
と思いますか。「あしたは、ちょっと 忙しくて行けない」「あしたは、ちょっ
とだめだけど、あさってなら行ける」など、いろいろ考えられます。

へんじ だんしがくせい ざんねん
この返事だけでは、はっきりわかりません。ところが、男子学生は「そう、残念
だね。また今度いっしょに行こうね」と言いました。女子学生は、映画に行け
ない、と断っていたのです。

にほんご ひてい つか
日本語では「できません」や「だめです」などの否定のことばをなるべく使
わないようにします。自分のほうからはっきり断らなくても、相手の人が
じぶん きもち あいて ひと した
自分の気持ちをわかってくれるようにします。それは相手の人との親しい
かんけい あいて ひと きず
関係をこわさないようにとか、相手の人を傷つけないようにするため、とか
い つか かた み
言われています。それは「けっこうです」ということばの使い方を見てもわ
かります。

ほうもん いえ いえ ひと ちゃ だ
たとえば、訪問した家で、その家の人がお茶を出してくれました。

「お茶ちゃをもういっばい、いかがですか」

「けっこうですね（もういっばいいただきます）」

「お茶ちゃをもういっばい、いかがですか」

「もうけっこうです（ほしくないです）」

このように同じ「けっこうです」が、反対はんたいの二つふたの意味いみを表あらわすのです。

日本人にほんじんでもどちらの意味いみか、迷まようことがあります。断ことわる時ときにはてぶりや顔かおの

表情ひょうじょうでもはっきり断ことわっていることを表あらわしたほうがいいでしょう。そのほ

かに「いいです」も、こうつかいう使かたい方をします。

店員てんいん「お客きやくさま、青あおいネクタイになさいますか。赤あかいネクタイになさい
ますか」

客きやく「そうですねえ。赤あかいのはいいです。青あおいのでいいです」

さて、このお客きやくさんは、赤あかいネクタイと、青あおいネクタイと、どちらのネ
クタイをえらんだのでしょうか。